

Ⅱ：分担研究報告

研究 5

全国の児童自立支援施設における薬物乱用の意識・実態調査

令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
分担研究報告書

全国の児童自立支援施設における薬物乱用・依存の意識・実態に
関する研究

分担研究者：庄司正実（目白大学人間学部）

研究協力者：宇佐見兼市（国立武蔵野学院）

青木 建（国立武蔵野学院）

【研究要旨】

【目的】本研究の目的は薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物の実態を継続的に把握し、青少年特に非行児の薬物乱用に対する予防・治療教育の基礎資料を得ることである。

【方法】昨年度の全国児童自立支援施設調査を再分析した。昨年度調査は主に単純集計結果を報告したが、今回は薬物乱用のパターン・非行行動との関連・飲酒や喫煙との関連などについて検討した。

【結果】

1) 飲酒および喫煙と薬物乱用の関連を検討した。男性では乱用薬物数と飲酒程度・喫煙程度の順位相関は男性ではそれぞれ $r=.28$ および $r=.22$ 、女性では $r=.33$ および $r=.37$ であった(すべて $p<.001$)。飲酒経験や喫煙経験が薬物乱用に関連していた。

2) 薬物乱用パターンについて数量化Ⅲ類により、一緒に使用されやすい乱用薬物について検討した。男女でややパターンが異なるが、およそ i 睡眠薬・安定剤・ブロン、ii 有機溶剤・ブタン、iii 大麻・覚せい剤、の3群に分けられた。類似した薬物が一緒に使用されている可能性が示唆された。

3) 多重ロジスティック回帰分析により、周囲の薬物者の有無、乱用への誘い、入手の容易さ、薬物への認識、法的知識、が薬物乱用に影響しているかを検討した。このうち乱用への誘いが有機溶剤、ブタン、睡眠薬・抗不安薬の各乱用に対して影響していることが示された。また、入手の容易さ、薬物への認識、が有機溶剤乱用および睡眠薬・抗不安薬の乱用で影響していた。

4) 周囲の薬物乱用が本人の薬物乱用に関連するかどうかを各薬物で見ると、有機溶剤、ブタン、大麻、睡眠薬・抗不安薬について、それぞれ周囲に乱用者がいた場合、本人乱用率は男性では30.6%、51.2%、19.4%、20.5%(いない場合は、0.6%、0.4%、0.5%、0.7%)、女性では44.4%、35.5%、18.0%、38.5%(いない場合は、3.8%、0.0%、0.0%、3.2%)であり、周囲に薬物乱用者がいることが本人の乱用に大きくかかわっていた。

5) 周囲から薬物乱用を誘われた経験が本人の薬物乱用に関連するかどうかを各薬物で見ると、有機溶剤、ブタン、大麻、睡眠薬・抗不安薬について、それぞれ周囲から誘惑された場合本人が乱用している割合は男性では51.2%、81.0%、32.0%、57.1%(誘惑されていない場合は、0.4%、0.9%、0.4%、0.7%)、女性では60.7%、50.0%、32.0%、54.5%(誘惑されていない場合は、5.2%、2.1%、0.6%、7.2%)であり、薬物を誘われることで本人の乱用頻度が高くなっていた。

6) 一般的な非行行動との関連について、乱用薬物種類の総数と非行項目総数の間に正の相関がみられた(男女それぞれ $\rho = .235$ 、 $\rho = .311$)。また 17 項目の非行項目のうち男性では 16 項目女性では 9 項目において薬物乱用の有無と非行行動の有無の関連が認められた。

【考察】今回周囲に薬物使用者がいると本人の乱用が多くなっており、またロジスティック回帰分析の結果より特に直接的に薬物使用を誘われた経験が直接乱用に結び付いていたことが示された。数量化Ⅲ類の分析から同系統の薬物は手に入れやすいまたは使用への抵抗が少ない可能性が推測された。また薬物以外の非行行動の深度が進んでいる方が薬物非行も多くなることが示された。以上からは青少年の薬物乱用において友人関係が大きく影響しており薬物非行の予防教育として人間関係が重要であることが示唆された。

今回の分析では乱用者数が少なかったという欠点がある。これまでの継続資料を用い複数年の資料で薬物乱用要因を検討することが今後必要と考えられる。

A. 研究目的

われわれは、1994年度より2016年度まで隔年ごとに児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用の実態を全国調査してきた^{1)・12)}。その結果、有機溶剤乱用者は男女とも低下してきており特に男性における低下が顕著であるという結果が得られている。また、覚せい剤乱用は男女とも2000年ころまで増加傾向にあったが、2002年以降減少傾向を示していた。大麻乱用頻度について男性は2008年までは4%から6%前後でありその後は1%から2%、女性では2010年までは10%から20%みられたが2012年以降は数%で続いている。その一方で睡眠薬や抗不安薬などの医薬品乱用が特に女性では2016年調査で10%前後と多く認められていた。

これまでわれわれのおもな目的は非行児における薬物乱用の頻度を縦断的に把握することであり、その目的はほぼ達せられている。しかし個々の薬物の乱用頻度の変化は把握してきていたが各薬物間の乱用の関連は検討されてこなかった。また周囲に薬物乱用者がいたかあるいは薬物の使用を友人等から誘われたことが乱用に結び付いていたか等十分検討してこなかった。薬物乱用は非行問題の一部であるが、全体的な非行深度と薬物非行が関連するののかも検討されていなかった。

そこで今年度は昨年度の調査結果をもと、飲酒やおよび喫煙と薬物乱用の関連、併用されやすい薬物のパターン、薬物乱用に影響する要因、またまた非行全体の深度との関連などを検討する。そのことにより入所児童の退所後の非行問題教育に生かすことの参考にすることができると考える。

B. 研究方法

1. 対象

2018年度に厚生労働科学研究として実施した全国児童自立支援施設調査の資料を用いた。

今回新たな調査は実施していない。

2018年度調査の回答施設数は41施設であった(施設回収率71.9%)。分析では性別の記載のなかった者を除いた。その結果最終的調査対象者数は826人(男性618人、女性208人)となった。

2. 調査用紙

2018年度調査の調査用紙は資料に示した。調査項目は、薬物乱用関連項目、薬物以外の非行関連項目、性格検査項目、一般個人属性などである(資料参照)。

調査が今後も同一施設に継続的に実施できるよう、なるべく被調査施設および被調査者の負担にならないように留意した。前回より調査項目を減らし、また回答者である児童にとって見やすいようなレイアウトでふりがなを振り回答に負担がかからないように配慮した。

3. 手続き

今回は2018年度調査結果の再分析をした。2018年度調査は無記名式調査用紙を各施設に郵送し、施設ごと集団で実施し、終了後施設ごとに一括して返送してもらった。調査については目白大学倫理審査会の審査を受けた。回答は強制ではなく回答したくない場合は回答しなくてもよく、また回答しなくても不利益は被らないことを説明し実施した。

C. 研究結果

1. 対象者の属性

対象者の属性は昨年度の調査報告書と同じであるが、結果の理解のために再掲する。

対象者の、性・学年構成、性・年齢構成、施設入所期間、地域別人数、非行歴、初発非行年齢、家庭裁判所係属歴を表1から表7に示した。

性別にみると男性が618人で全体の74.8%を占めている。就学状況は、中学3年生が男性

259人(41.9%)、女性が87人(41.8%)と最も多い(表1)。中学生が多いが、高校生および専門学校生が男性19人(3.1%)、女性9人(4.4%)いた。中学卒業後で無職である者も男性15人(2.4%)、女性8人(3.8%)いた。そのほか小学生が男女それぞれ64人(10.3%)、15人(7.2%)いた。就労者は男女含め3人いた。

施設入所期間は、最も多いのは期間6ヶ月から1年で男性143人(23.1%)、女性51人(24.5%)であった。また入所初期の3ヶ月以下の者が男性99人(16.0%)、女性51人(24.5%)であった。一方、2年以上入所している者が男性17人(2.8%)、女性14人(6.7%)いた(表2)。

非行歴に関しては多いものから順に、男性では怠学365人(59.1%)、傷害352人(57.0%)、家出・外泊341人(55.2%)、金品持ち出し315人(51.0%)、窃盗309人(50.0%)、女性では家出・外泊172人(82.7%)、怠学157人(75.5%)、窃盗116人(55.8%)、金品持ち出し113人(54.3%)、家庭内暴力112人(53.8%)などとなっている(表3)。

初発非行年齢は、男女とも小学校3年から中学校1年で10%台でありほぼ一定である(表4)。

2. 薬物乱用・飲酒・喫煙の頻度

調査対象薬物は有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタン、コカイン、睡眠薬、抗不安薬(安定剤)、咳止め液、MDMA、リタリン、危険ドラッグである。入所非行児の薬物乱用は女性に多く性差があるため、男女別に検討した。

1) 薬物乱用頻度(表5)

本人の薬物乱用もほとんどの薬物において女性は男性より頻度が高かった。

男性では、乱用頻度が高い順に、ブタン25人(4.0%)、有機溶剤23人(3.7%)、大麻10人(1.6%)、睡眠薬9人(1.5%)、抗不安薬8人(1.3%)、覚せい剤3人(0.5%)、咳止め液3人(0.5%)、危険ドラ

ッグ2人(0.3%)、MDMA1人(0.2%)、コカイン1人(0.2%)であった。リタリンは該当者がいなかった。

女性では、乱用頻度が高い順に、有機溶剤26人(12.5%)、睡眠薬21人(10.1%)、抗不安薬16人(7.7%)、ブタン11人(5.3%)、大麻9人(4.3%)、咳止め液7人(3.4%)、覚せい剤7人(3.4%)、MDMA1人(0.5%)、危険ドラッグ2人(1.0%)、コカイン2人(1.0%)であった。リタリンは該当者がいなかった。

複合乱用の状況を見るために乱用薬物種の合計を算出した。まったく薬物乱用をしていない者は男女それぞれ536人(91.6%)158人(78.6%)であり、男女それぞれ19人(8.4%)43人(21.4%)は何らかの薬物乱用が認められた。乱用者における乱用薬物数を示した(表6)。男性では乱用薬物1つが34人(69.4%)で2つ以上が15人(30.6%)、女性では1つが16人(37.2%)2つ以上が27人(62.8%)であり、女性では複数乱用の率が高かった。さらに3剤以上の乱用者は男性12人(24.4%)女性16人(37.3%)見られた。

2) 飲酒歴(表7、表8)

2010年調査より飲酒歴についても尋ねている。飲酒経験は、男性では188人(30.4%)、女性では123人(59.1%)であった。飲酒頻度は男性では1年で数回とした者(76人;12.3%)がやや多いが、女性ではほぼ毎日(38人;18.3%)とした者が多く、女性のほうが飲酒していた。飲酒開始年齢は、男女とも中学校1年生がそれぞれ30%以上、25%以上であり最も多かった。

3) 喫煙歴(表9、表10)

喫煙歴についても2010年調査より調査項目とした。喫煙歴は男性192人(31.1%)、女性98人(47.1%)であり、女性は男性より頻度が高かった。喫煙は、飲酒と異なり経験者では使用頻度はほぼ毎日とする者が男女とも最も多かった。男性の98

人(15.9%)、女性の 58 人(27.9%)がほぼ毎日喫煙をしていた。喫煙開始年齢は、男女とも中学校 1 年生がほぼ 30%以上で最も多かった。

3. 飲酒と薬物乱用の関連(表 11)

1) 薬物乱用経験の有無と飲酒経験の有無

薬物乱用経験の有無と飲酒経験の有無の関連を 2×2 表で検討した。男性では飲酒歴のある児童の薬物経験率は 19.3%であり、飲酒歴のない児童の薬物経験率 3.6%よりも有意に高かった($\phi = .26, P < .001$)。女性でも飲酒歴のある児童の薬物経験率は 31.4%であり、飲酒歴のない児童の薬物経験率 4.0%よりも有意に高かった($\phi = .33, P < .001$)。

2) 薬物乱用経験と飲酒開始年齢

薬物乱用経験の有無 2 群で飲酒開始年齢を U 検定により比較したところ、薬物乱用経験の有群と無群の間に飲酒開始年齢の差はなかった(男女それぞれ、 $p = .104; p = .244$)。

3) 飲酒程度と乱用薬物数(表 12)

飲酒程度は、1. 飲んだことはない、2. 1 年で数回、3. 月 2-3 回、4. 週に 2-3 回、5. ほぼ毎日、の 5 段階評価とした。乱用薬物数は、これまで乱用したことのある薬物の種類の合計とした。

表 12 に男女ごとの、飲酒程度と喫煙程度と乱用薬物数のスピアマン順位相関を示した。男女とも飲酒程度と乱用薬物数に正の相関が認められた(男女それぞれ、 $\rho = .28, \rho = .33$)。また男女とも飲酒と喫煙の間には、.79 の相関があり、飲酒と薬物との相関よりも飲酒と喫煙の相関の方が高かった。

4. 喫煙と薬物乱用の関連(表 13)

1) 物乱用経験の有無と喫煙経験の有無

飲酒経験と同様に薬物乱用と喫煙経験の有無の 2×2 表で検討した。

男性では喫煙歴のある児童の薬物経験率は 16.8%であり、喫煙歴のない児童の薬物経験率 4.6%よりも有意に高かった($\phi = .20, P < .001$)。女性でも喫煙歴のある児童の薬物経験率は 36.5%であり、喫煙歴のない児童の薬物経験率 6.1%よりも有意に高かった($\phi = .37, P < .001$)。

2) 薬物乱用経験と飲酒開始年齢

薬物乱用経験の有無 2 群で喫煙開始年齢を U 検定により比較したところ、薬物乱用経験の有群と無群の間に喫煙開始年齢の差はなかった(男女それぞれ、 $p = .167; p = .103$)。

3) 喫煙程度と乱用薬物数

喫煙程度も飲酒程度と同じ 5 段階評価をした。表 12 のとおり喫煙の場合も飲酒と同様に乱用薬物数と有意に正の相関を示した(男女それぞれ、 $\rho = .22, \rho = .37$)。

5. 薬物乱用のパターン(図 1、図 2)

数量化Ⅲ類により薬物の乱用パターンの類似性を検討した。乱用者が少ない薬物は対象薬物より除くこととし、男女ごとに見て乱用者が 10 人以下の薬物は除いた。その結果対象とした薬物は、有機溶剤、大麻、覚醒剤、ブタン、睡眠薬、抗不安薬(安定剤)、咳止め液となった。

数量化Ⅲ類の 1 軸と 2 軸の配置を図 1 および図 2 に示した。

女性の方が男性よりも薬物のパターン配置が分かりやすかった。女性では、大きく 3 群に分かれると思われ、それは 1 群：睡眠薬・安定剤・ブロン、2 群：シンナー・ガス、3 群：大麻・覚せい剤である。これは薬物の作用による分類としても納得しやすい。一方男性では、ブロンが睡眠薬・安定剤の群より離れて布置されやや覚せい剤や大麻に近い傾向にある。男性でもシンナー・ガスおよび睡眠薬・安定剤はほぼ近い同位置に布置されていた。

6. 薬物乱用に関連する要因

比較的乱用者の多かった薬物について、薬物乱用に関連すると思われる要因を検討した。取り上げた薬物は男性または女性で 10 名以上の使用者がいた薬物とした。有機溶剤、ブタン、大麻、睡眠薬・抗不安薬の 4 つである。なお睡眠薬と抗不安薬は類似として 1 つにまとめて分析した。

各薬物の周囲の薬物者の有無、乱用を誘われたか、入手の容易さ、薬物への認識、法的知識、を男女別に各薬物の乱用者と非乱用者で比較した。入手容易さについては得点が高いほど入手困難を示している。

1) 有機溶剤

有機溶剤乱用についての結果を表 14 に示した。男女とも乱用の有無により各薬物の周囲の薬物者の有無、乱用を誘われたか、入手の容易さ、薬物への認識、法的知識の相違が推測された。

そこでこれらの 4 要因が乱用の有無に関連するか統計的に検討するために、ロジスティック回帰分析を行った。また飲酒経験および喫煙経験も薬物乱用に関連する可能性があるためこれらも投入することとした。以上より従属変数は有機溶剤乱用の有無で、独立変数は上記 6 要因とした。Wald 検定をおこない、周囲からの誘惑 ($p < .05$)・入手の容易さ ($p < .01$)・薬物への認識 ($p < .01$)に有意差がみられた。法的知識および飲酒程度・喫煙程度は差がなかった(表 15)。

2) ブタン

ブタンについても有機溶剤と同様に、関連要因を表 16 に示した。またロジスティック回帰分析を行った(表 17)。ブタンについては乱用への誘惑が乱用者で多く ($p < .01$) およびが薬物への認識が乱用者で許容的であった ($p < .01$) が、他の要因には有意さを認めなかった。

3) 大麻

大麻についても同様に関連を表 18 に示し、ロジスティック回帰分析を行った(表 19)。大麻については乱用に統計的に関連する要因をロジスティック回帰分析で認めなかった。

4) 睡眠薬・抗不安薬

ここでは睡眠薬と抗不安薬をまとめた上で処理した。各要因の頻度を表 20 に示し、ロジスティック回帰分析を行った(表 21)。睡眠薬・抗不安薬では薬物への誘惑・入所の容易さ・薬物への認識が乱用に結びついていた(それぞれ、 $p < .05$; $p < .05$; $p < .01$)。

以上全体に交遊関係の影響が大きいことが示唆された。表 14、表 16、表 18、表 20 より周囲の薬物乱用が本人の薬物乱用に関連するかどうかを各薬物で見ると、有機溶剤、ブタン、大麻、睡眠薬・抗不安薬について、それぞれ周囲に乱用者がいた場合、本人乱用率は男性では 30.6%、51.2%、19.4%、20.5% (いない場合は、0.6%、0.4%、0.5%、0.7%)、女性では 44.4%、35.5%、18.0%、38.5% (いない場合は、3.8%、0.0%、0.0%、3.2%) であり、周囲に薬物乱用者がいる本人の乱用頻度が高くなっていた。

また周囲から薬物を誘われた経験が本人の薬物乱用に関連するかどうかを各薬物で見ると、有機溶剤、ブタン、大麻、睡眠薬・抗不安薬について、それぞれ周囲から誘惑された場合本人が乱用している割合は男性では 51.2%、81.0%、32.0%、57.1% (誘惑されていない場合は、0.4%、0.9%、0.4%、0.7%)、女性では 60.7%、50.0%、32.0%、54.5% (誘惑されていない場合は、5.2%、2.1%、0.6%、7.2%) であり、薬物を誘われることで本人の乱用頻度が高くなっていた。

7. 薬物とその他の非行行動

薬物乱用の有無と 17 項目の非行の有無につい

て関連を検討した。

まず非行総数と乱用総数の順位相関を男女別に検討した。スピアマンの順位相関 ρ は男女それぞれ.235 および.311 であり正相関を示した ($p < .01$)。

男女の薬物乱用有無別に非行の頻度を示した(表 22)。重大な非行である傷害の頻度は、男性の乱用者と非乱用者でそれぞれ 83.7% および 54.1%、女性の乱用者と非乱用者でそれぞれ 62.8% および 51.9% であった。窃盗は男性の乱用者と非乱用者でそれぞれ 69.4% および 48.3%、女性の乱用者と非乱用者でそれぞれ 65.1% および 46.2% であった。怠学は、男性の乱用者と非乱用者でそれぞれ 77.6% および 57.5%、女性の乱用者と非乱用者でそれぞれ 93.0% および 73.4% であった。薬物の入所とも関連すると考えられる不良交友は、男性の乱用者と非乱用者でそれぞれ 63.3% および 22.9%、女性の乱用者と非乱用者でそれぞれ 81.4% および 45.6% であった。男性では性非行を除きすべての非行行動頻度が乱用者は非乱用者よりも高かった。一方女性において乱用者の方が多かった非行は、家出・家庭内暴力・怠学・バイク自動車盗・不良交友・暴力団交友・無免許運転・性非行などであった。いくつかの非行は頻度が少なく統計的検定が難しかった。

D. 考察

本年度は昨年度調査をもとに非行児の薬物乱用に関連する要因を明らかにすることであった。

想定された周囲薬物乱用の影響は予想通り本人の薬物乱用に影響していることが示唆された。

1. 周囲の乱用者の影響

今回検討した有機溶剤、ブタン、大麻、睡眠薬・抗不安薬は、いずれも周囲で使用している者がいる場合本人の乱用が多くなっていた。周囲で使用している者がいれば、その人物を通じて入手しや

すいであろう。また使用している者が快を得ていたり特に副作用などがなければ、自分が使用することへの抵抗も減弱すると思われる。

その一方で周囲に乱用者がいても使用しない者も多かった。男性のブタン乱用は周囲の影響が大きいようであるが、他の薬物では周囲に乱用者がいても半数以上は使用していなかった。

2. 薬物乱用に至る飲酒・喫煙の影響

今回の結果では飲酒経験および喫煙経験はいずれも薬物乱用経験と正の相関を示し、飲酒や喫煙経験が薬物乱用に結び付く可能性を示唆している。さらに飲酒や喫煙の程度が進んでいるほど、乱用薬物数が多くなり、飲酒や喫煙が薬物乱用の進捗と関連しているようであった。また飲酒と喫煙の間において相関は.79 とかなり高いことが示された。

飲酒や喫煙の開始が早い方が薬物非行に結び付きやすいかどうかを見るため薬物使用の有無で飲酒・喫煙の開始年齢を比較したが有意差は得られず、飲酒・喫煙が早いほど薬物乱用するということは示されなかった。これは薬物乱用者が少なかったこともあるかもしれない。

3. 乱用薬物種のパターン

今回どの薬物が関連して同時に使用されやすいかを数量化Ⅲ類により検討してみた。その結果薬物の薬理作用が類似しているものが一緒に使用されやすい傾向にあることが示唆された。具体的には、有機溶剤とブタン、医薬品関連である睡眠薬・抗不安薬・風邪薬であるブロン液と一緒に用いられやすかった。また非合法薬物の大麻と覚せい剤が関連しても用いられやすかった。これは効果の類似したものは乱用者としては使用体験から比較的安心して手を出しやすいということがあるかもしれない。また同系統の薬物というのは、その所属集団のなかで手に入りやすいなどがあるかもしれない。

4. 周囲からの薬物乱用の誘惑

周囲に乱用者がいるだけでは本人は使用に踏み込みにくいですが更に周囲の乱用者から使用を誘われると薬物乱用をする可能性が高まると考えられる。誘惑された場合に乱用してしまう心理としては、「もともと興味があった」「友人からの誘いで断りにくかった」「何となく」が従来あげられている理由である。

今回ロジスティック回帰分析により、乱用に関連する要因として周囲の薬物者の有無・乱用への誘い・入手の容易さ・薬物への認識・法的知識の効果を検討した。このうち薬物への誘いが有機溶剤、ブタン、睡眠薬・抗不安薬の乱用において影響していることが示された。大麻では薬物への誘われることの影響は示されなかった。周囲に薬物使用者がいるだけでは手を出すものが 20-30%程度であったが誘われることがかなり直接的な乱用原因と考えられた。しかし薬物へ誘われても乱用しない者が半数近くおり、本人の薬物への知識、人間関係の状況、本人の規範意識などが抑制要因になっていると思われる。今回のロジスティック回帰分析においては有機溶剤や睡眠薬・抗不安薬では入手の容易さや薬物への認識も影響していた。我々の以前の面接調査でも薬物を誘われて断る理由として上記のような要因が得られている。

今回ロジスティック回帰分析を行ったが、各種薬物の乱用者が少ないため分析の解釈に制限がある。過去の調査結果も含めて分析する必要もあると考えられる。

5. 薬物乱用と他の非行との関連

乱用薬物数が多い者ほど犯した非行の種類も多くなっており、薬物乱用と非行の全般的程度は関連していた。またすべての個々の非行行動も乱用者では非乱用者よりも多くなっていた。非乱用者よりも乱用者に目立つ非行として、不良交友や暴力団交友などがあり、交友関係の中から薬物を

入手している可能性が疑われる。またバイク自動車等や無免許運転など交通犯罪関係も乱用者は非乱用者よりもかなり頻度が高い傾向を示唆しており、薬物非行と交通犯罪は関連しやすいのかもしれない。

6. 今後の研究

本研究では前年度のデータをもとに、薬物乱者と非乱用者の比較を行った。近年薬物乱用児童が減少しており、統計処理をするうえで薬物乱用者がやや少なかったと考えられる。これまでの調査資料も加えて統計処理をさらにする必要があると考えられた。

過去 20 年くらいの間で非行児の間において乱用される薬物がかなり変化してきている。違法薬物と医薬品では乱用の要因が異なるかもしれない。そのため以前と現在において乱用要因が変化している可能性も考えられる。

また入所非行児の非行内容も以前から変化しており非行全般の状況と薬物非行の関連も検討していく必要もあると思われる。

E. 結論

昨年度の全国児童自立支援施設調査を再分析した。昨年度調査は主に単純集計結果を報告したが、今回は薬物乱用のパターン・非行行動との関連・飲酒や喫煙との関連などについて検討した。

有機溶剤、ブタン、大麻、睡眠薬・抗不安薬の乱用に検討したところ周囲の仲間から薬物使用の誘惑を受けることが乱用の要因として大きかった。これは従来の青少年における薬物乱用研究で報告されていることと一致している。

謝辞

本研究は、全国の児童自立支援施設の多くの方々のご協力により実施ができました。ご協力いただいた方々にここで深謝させていただきます。

F. 参考文献

- 1) 阿部恵一郎：児童福祉施設(教護院)における有機溶剤乱用少年・少女の実態調査. 平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存研究の社会的、精神医学的特徴に関する研究 平成6年度研究結果報告書. 1995
- 2) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成10年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」. 1999
- 3) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成12年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」. 2001
- 4) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成14年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」. 2003
- 5) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成16年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究」. 2005
- 6) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成18年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握と乱用・依存者に対する対応策に関する研究」. 2007
- 7) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成20年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握と「回復」に向けての対応策に関する研究」. 2009
- 8) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成22年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態把握と再乱用防止のための社会資源等の現状と課題に関する研究」 2011
- 9) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成24年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態把握と薬物依存者に関する制度的社会資源の現状と課題に関する研究」 2013
- 10) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成26年度厚生労働科学研究「脱法ドラッグを含む薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の回復とその家族に対する支援に関する研究」 2015
- 11) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成28年度厚生労働科学研究「危険ドラッグを含む薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」 2017
- 12) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成30年度厚生労働科学研究「物乱用・依存状況等のモニタリング調査と薬物依存症者・家族に対する回復支援に関する研究」 2019

G. 研究発表

なし

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

表1 性・学年構成

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
小学 4年以下	9	1.5	2	1.0
小学 5年	17	2.8	5	2.4
小学 6年	38	6.1	8	3.8
中学 1年	82	13.3	27	13.0
中学 2年	177	28.6	60	28.8
中学 3年	259	41.9	87	41.8
高校 1年	12	1.9	6	2.9
高校 2年	3	0.5	1	0.5
高校 3年	2	0.3	2	1.0
専門学校	2	0.3	0	0.0
中卒 無職	15	2.4	8	3.8
就労中	2	0.3	1	0.5
無回答	0	0.0	1	0.5

表2 施設入所期間

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
3ヶ月以下	99	16.0	51	24.5
4ヶ月から6ヶ月	103	16.7	39	18.8
6ヶ月から1年	143	23.1	51	24.5
1年から1年6ヶ月	126	20.4	33	15.9
1年6ヶ月から2年	51	8.3	15	7.2
2年以上	17	2.8	14	6.7
無回答	79	12.8	5	2.4

表3 非行歴

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
学校をさぼった	365	59.1	157	75.5
外泊や家出をした	341	55.2	172	82.7
自転車を盗んだ	191	30.9	77	37.0
人の物やお金を盗んだ	309	50.0	116	55.8
人にけがをさせた	352	57.0	102	49.0
家からお金を持ち出した	315	51.0	113	54.3
不良仲間とつき合った	164	26.5	109	52.4
家の中で暴れた	262	42.4	112	53.8
人の物をわざと壊した	156	25.2	73	35.1
バイクや自動車を盗んだ	96	15.5	35	16.8
ひったくり, カツアゲ	61	9.9	23	11.1
無免許運転	104	16.8	36	17.3
物や家に火をつけた	141	22.8	44	21.2
根性焼きや入墨をした	64	10.4	39	18.8
性関係のこと	179	29.0	99	47.6
その他	63	10.2	44	21.2
暴力団とつき合った	20	3.2	28	13.5
暴走族に入った	13	2.1	6	2.9

表4 初発非行年齢

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
小学校入学前	42	6.8	14	6.7
小学 1年	50	8.1	19	9.1
小学 2年	38	6.1	17	8.2
小学 3年	86	13.9	21	10.1
小学 4年	75	12.1	28	13.5
小学 5年	89	14.4	26	12.5
小学 6年	76	12.3	30	14.4
中学 1年	68	11.0	31	14.9
中学 2年	27	4.4	3	1.4
中学 3年	1	0.2	3	1.4
中学卒業後	0	0.0	1	0.5
無回答	66	10.7	15	7.2

表5 本人の薬物乱用経験

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	23	3.7	26	12.5
大麻	10	1.6	9	4.3
覚せい剤	3	0.5	7	3.4
ブタン	25	4.0	11	5.3
MDMA	1	0.2	1	0.5
コカイン	1	0.2	2	1.0
リタリン	0	0.0	0	0.0
睡眠薬	9	1.5	21	10.1
抗不安薬	8	1.3	16	7.7
咳止め液	3	0.5	7	3.4
危険ドラッグ	2	0.3	2	1.0
その他	7	1.1	6	2.9

表6 乱用薬物数(乱用者のみ)

乱用薬物数	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
1	34	69.4	16	37.2
2	3	6.1	11	25.6
3	5	10.2	6	14.0
4	5	10.2	7	16.3
5	1	2.0	2	4.7
6	1	2.0	1	2.3
	49	100.0	43	100.0

表7 飲酒歴

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
ない	412	66.7	77	37.0
1年で数回	76	12.3	28	13.5
月に2-3回	33	5.3	21	10.1
週に2-3回	49	7.9	36	17.3
ほぼ毎日	30	4.9	38	18.3
無回答	18	2.9	8	3.8

表8 飲酒開始（経験者のみ）

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
小学 1年	5	2.9	9	7.7
小学 2年	6	3.5	2	1.7
小学 3年	13	7.5	7	6.0
小学 4年	18	10.4	5	4.3
小学 5年	20	11.6	19	16.2
小学 6年	25	14.5	20	17.1
中学 1年	61	35.3	31	26.5
中学 2年	17	9.8	19	16.2
中学 3年	8	4.6	5	4.3

表9 喫煙歴

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
ない	409	66.2	102	49.0
1年で数回	49	7.9	18	8.7
月に2-3回	13	2.1	7	3.4
週に2-3回	32	5.2	15	7.2
ほぼ毎日	98	15.9	58	27.9
無回答	17	2.8	8	3.8

表10 喫煙開始

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
小学 1年	5	2.7	2	2.1
小学 2年	4	2.1	2	2.1
小学 3年	13	6.9	8	8.5
小学 4年	27	14.4	10	10.6
小学 5年	21	11.2	13	13.8
小学 6年	34	18.1	12	12.8
中学 1年	52	27.7	30	31.9
中学 2年	23	12.2	12	12.8
中学 3年	7	3.7	5	5.3
不明	2	1.1	0	0.0

表11 薬物乱用有無と飲酒の有無

		薬物乱用				φ係数
		無		有		
		人数	%	人数	%	
男性	飲酒無	380	96.4	14	3.6	.26
	有	146	80.7	35	19.3	
女性	飲酒無	72	96.0	3	4.0	.33
	有	83	68.6	38	31.4	

表12 薬物乱用数と飲酒程度・喫煙程度の相関

	スピアマンの順位相関		
	乱用薬物数	飲酒の程度	喫煙の程度
乱用薬物数	—	.28 **	.22 **
飲酒の程度	.33 **	—	.79 **
喫煙の程度	.37 **	.79 **	—

** : <.001

上部三角部: 男性

下部三角部: 女性

表13 薬物乱用有無と喫煙の有無

		薬物乱用				φ係数
		無		有		
		人数	%	人数	%	
男性	喫煙無	372	95.4	18	4.6	.20
	有	153	83.2	31	16.8	
女性	喫煙無	93	93.9	6	6.1	.37
	有	61	63.5	35	36.5	

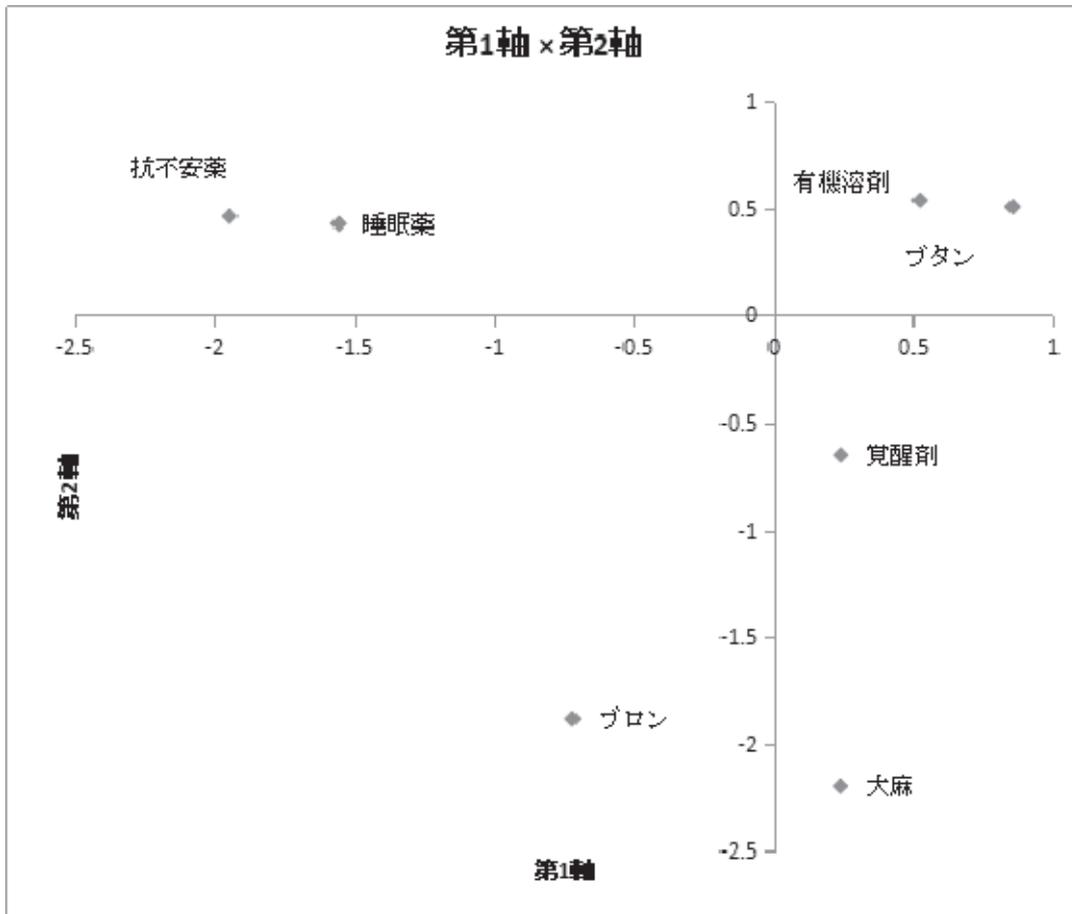


図1 男性の薬物乱用のパターン(数量化Ⅲ類)

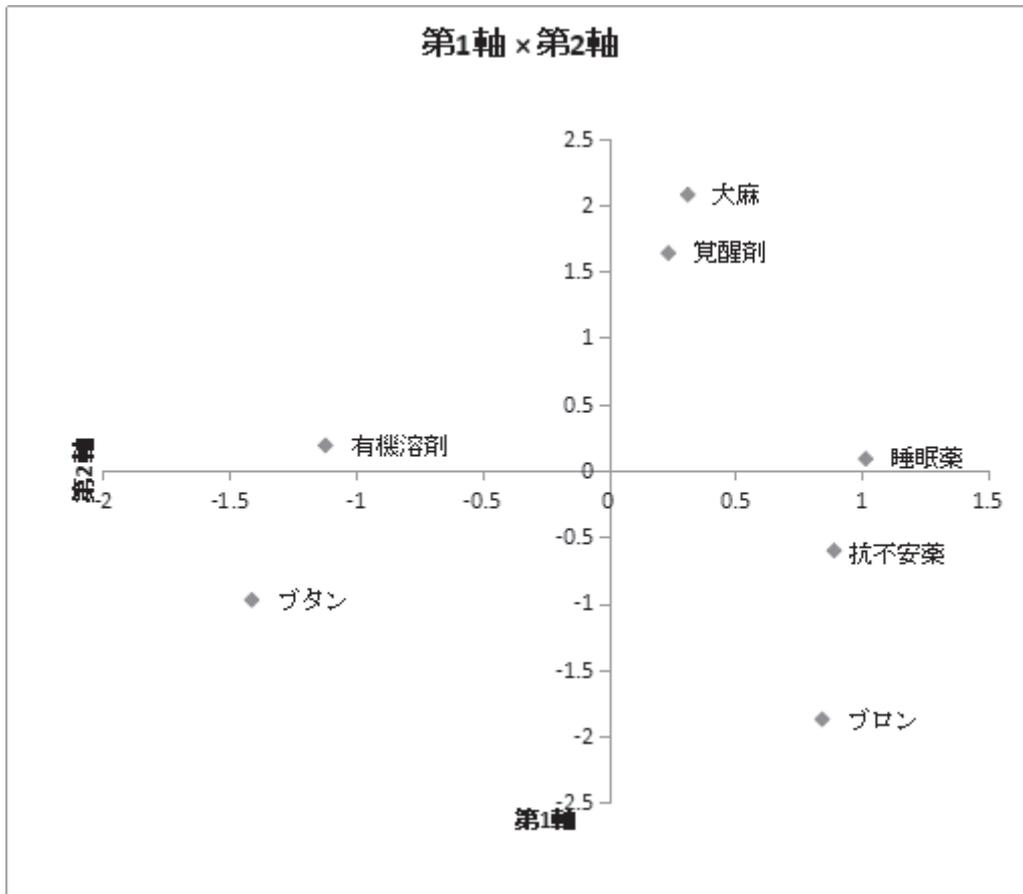


図2 女性の薬物乱用のパターン(数量化Ⅲ類)

表14 周囲の薬物乱用者、乱用を誘われたか、入手の容易さ、薬物への認識、法的知識
(有機溶剤)

	有機溶剤乱用	男性				女性			
		有		無		有		無	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
周囲の有機溶剤乱用者	有	19	86.4	43	7.6	20	76.9	25	14.3
	無	3	13.6	522	92.4	6	23.1	150	85.7
有機溶剤の誘い	有	13	65.0	14	2.5	17	65.4	11	6.3
	無	7	35.0	551	97.5	9	34.6	165	93.8
入手可能性	簡単に手に入る	15	71.4	41	8.0	20	76.9	26	15.8
	なんとか手に入る	2	9.5	45	8.8	3	11.5	18	10.9
	ほとんど不可能だ	1	4.8	40	7.8	0	0.0	17	10.3
	絶対不可能だ	3	14.3	385	75.3	3	11.5	104	63.0
有機溶剤の認識	すべきではない	5	45.5	234	97.1	3	16.7	67	82.7
	少々ならかまわない	5	45.5	5	2.1	7	38.9	7	8.6
	守る必要は全然ない	1	9.1	2	0.8	8	44.4	7	8.6
法的禁止	禁止を知っていた	15	65.2	493	89.5	18	72.0	151	86.3
	知らなかった	8	34.8	58	10.5	7	28.0	24	13.7

表15 有機溶剤乱用の規定要因(ロジスティック回帰分析)

	偏回帰係数	オッズ比
周囲の薬物乱用者	1.278	3.590
薬物への誘い	1.595	4.930 *
入手困難さ	-0.909	0.403 **
薬物への認識	1.127	3.087 **
法律知識	0.652	1.918
飲酒歴	-0.663	0.515
喫煙歴	-0.829	0.437

*: $p < .05$, **: $p < .01$

Nagelkerke R^2 0.570

表16 周囲の薬物乱用者、乱用を誘われたか、入手の容易さ、薬物への認識、法的知識(ブタン)

	ブタン乱用	男性				女性			
		有		無		有		無	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
周囲のブタン乱用者	有	21	91.3	20	3.6	11	100.0	20	10.6
	無	2	8.7	540	96.4	0	0.0	169	89.4
ブタンの誘い	有	17	77.3	4	0.7	7	63.6	7	3.7
	無	5	22.7	557	99.3	4	36.4	183	96.3
入手可能性	簡単に手に入る	18	75.0	96	18.9	9	81.8	46	25.8
	なんとか手に入る	1	4.2	25	4.9	1	9.1	14	7.9
	ほとんど不可能だ	2	8.3	30	5.9	0	0.0	17	9.6
	絶対不可能だ	3	12.5	357	70.3	1	9.1	101	56.7
ブタンの認識	すべきではない	3	20.0	224	96.6	2	28.6	68	75.6
	少々ならかまわない	3	20.0	6	2.6	1	14.3	10	11.1
	守る必要は全然ない	9	60.0	2	0.9	4	57.1	12	13.3

表17 ブタン乱用の規定要因(ロジスティック回帰分析)

	偏回帰係数	オッズ比
周囲の薬物乱用者	1.679	5.360
薬物への誘い	3.294	26.954 **
入手困難さ	-0.839	0.432
薬物への認識	1.051	2.860 *
飲酒歴	0.863	2.369
喫煙歴	-2.038	0.130

*: $p < .05$, **: $p < .01$

Nagelkerke R^2 0.724

表18 周囲の薬物乱用者、乱用を誘われたか、入手の容易さ、薬物への認識、法的知識(大麻)

	大麻乱用	男性				女性			
		有		無		有		無	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
周囲の大麻乱用者	有	7	70	29	5.1	9	100.0	41	21.5
	無	3	30	545	94.9	0	0.0	150	78.5
大麻の誘い	有	8	80.0	17	3.0	8	88.9	17	8.8
	無	2	20.0	558	97.0	1	11.1	176	91.2
入手可能性	簡単に手に入る	4	40.0	25	4.8	9	100.0	20	11.1
	なんとか手に入る	5	50.0	41	7.9	0	0.0	24	13.3
	ほとんど不可能だ	0	0.0	42	8.1	0	0.0	24	13.3
	絶対不可能だ	1	10.0	412	79.2	0	0.0	112	62.2
大麻の認識	すべきではない	1	12.5	244	94.9	1	14.3	78	78.0
	少々ならかまわない	3	37.5	8	3.1	3	42.9	11	11.0
	守る必要は全然ない	4	50.0	5	1.9	3	42.9	11	11.0
法的禁止	禁止を知っていた	9	90.0	518	92.2	5	62.5	172	89.6
	知らなかった	1	10.0	44	7.8	3	37.5	20	10.4

表19 大麻乱用の規定要因(ロジスティック回帰分析)

	偏回帰係数	オッズ比
周囲の薬物乱用者	-0.206	0.814
薬物への誘い	1.531	4.624
入手困難さ	-0.109	0.896
薬物への認識	0.772	2.164
法律知識	-1.382	0.251
飲酒歴	-0.205	1.176
喫煙歴	0.768	1.030

*: $p < .05$, **: $p < .01$

表20 周囲の薬物乱用者、乱用を誘われたか、入手の容易さ、薬物への認識、法的知識
(睡眠薬・抗不安薬)

	睡眠薬・抗不安薬 乱用	男性				女性			
		有		無		有		無	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
周囲の睡眠薬・ 抗不安薬乱用者	有	8	66.7	31	94.9	20	80.0	32	17.5
	無	4	33.3	575	5.1	5	20.0	151	82.5
睡眠薬・抗不安 薬の誘い	有	8	66.7	6	1.0	12	48.0	10	5.6
	無	4	33.3	572	99.0	13	52.0	167	94.4
入手可能性	簡単に手に入る	9	75.0	43	8.3	22	88.0	34	20.4
	なんとか手に入る	1	8.3	53	10.2	2	8.0	18	10.8
	ほとんど不可能だ	0	0.0	43	8.3	0	0.0	17	10.2
	絶対不可能だ	2	16.7	381	73.3	1	4.0	98	58.7
睡眠薬・抗不安薬 すべきではない		1	16.7	233	92.8	1	5.3	59	64.1
	少々ならかまわない	0	0.0	12	4.8	6	31.6	19	20.7
	守る必要は全然ない	5	83.3	6	2.4	12	63.2	14	15.2

表21 睡眠薬・抗不安薬乱用の規定要因(ロジスティック回帰分析)

	偏回帰係数	オッズ比
周囲の薬物乱用者	0.980	2.664
薬物への誘い	1.479	4.388 *
入手困難さ	-1.585	0.205 *
薬物への認識	1.537	4.649 **
飲酒歴	0.565	1.760
喫煙歴	0.623	1.864
*: $p < .05$, **: $p < .01$		
Nagelkerke R^2	0.710	

表22 薬物乱用有無別の非行頻度

薬物の乱用有無	男性				χ^2	女性				χ^2		
	あり(n=49)		なし(n=536)			あり(n=43)		なし(n=158)				
	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%			
家出	39	79.6	286	53.4	12.51	**	41	95.3	127	80.4	5.52	*
傷害	41	83.7	290	54.1	15.98	**	27	62.8	73	46.2	3.72	
金品持出	36	73.5	265	49.4	10.38	**	27	62.8	82	51.9	1.62	
自転車盗	30	61.2	154	28.7	21.99	**	21	48.8	53	33.5	3.40	
窃盗	34	69.4	259	48.3	7.97	**	28	65.1	84	53.2	1.96	
カツアゲ	16	32.7	42	7.8	30.96	**	8	18.6	14	8.9	3.29	
家庭内暴力	30	61.2	219	40.9	7.62	**	29	67.4	80	50.6	3.85	*
暴走族	5	10.2	7	1.3	17.69	**	4	9.3	2	1.3	7.54	**
放火	21	42.9	111	20.7	12.60	**	10	23.3	32	20.3	0.18	
怠学	38	77.6	308	57.5	7.50	**	40	93.0	116	73.4	7.48	**
バイク自動車盗	26	53.1	65	12.1	57.27	**	15	34.9	18	11.4	13.59	**
器物破壊	20	40.8	130	24.3	6.46	*	19	44.2	51	32.3	2.11	
不良交友	31	63.3	123	22.9	37.63	**	35	81.4	72	45.6	17.43	**
暴力団交友	11	22.4	8	1.5	62.75	**	13	30.2	15	9.5	12.13	**
根性焼き刺青	16	32.7	43	8.0	30.04	**	12	27.9	26	16.5	2.89	
無免許運転	25	51.0	73	13.6	45.03	**	15	34.9	20	12.7	11.61	**
性非行	17	34.7	156	29.1	0.67		31	72.1	67	42.4	11.92	**

調査へのお願い

- この調査の目的は、薬物などに対するみなさんの考えや経験を知ることです。この調査は、厚生労働省の科学研究費によるもので、現在、全国の一般中学生でも同様な調査が行われています。
- 自分の名前は書く必要はありません。また、集めた用紙もコンピュータで集計しますので誰がどのように答えたのか分かりません。したがって、答えた内容が施設での生活や退院時期に影響することはありません。どうしても答えたくない質問には答えなくてもかまいません。
- 各質問に対する回答は、特にことわらない限りもっともあてはまる内容の番号を一つだけ選んで○をつけて下さい。

目白大学	教授	庄司正実
国立武蔵野学院	院長	青木 建
国立武蔵野学院	医務課長	富田 拓

問1 あなたの年齢はいくつですか？ 年齢を記入してください _____ 歳

問2 学校は？

- 1 小学校 2 中学校 3 高校 4 専門学校 5 中学卒業後で無職 6 しゅうろうちゅう 就労中

問3 何年生ですか？ 学年を記入してください _____ 年生

問4 男性ですか，女性ですか？ 1 男性 2 女性

問5 今回，この施設に入所してからどのくらいになりますか？ _____ 年 _____ ヶ月

問6 これまで^{かていさいばんしよ}家庭裁判所から呼び出されたことはありますか？ 1 ある 2 ない

問7

あなたの身近（友達、先輩、知り合い、家族など）で以下のような薬物をやっている人はいましたか？

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----|----------------------------|-----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド、マニキュアの除光液なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 2) マリファナ（大麻、ハッパ、ハシッシも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 3) 覚せい剤（エス、スピード、シャブも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 4) ガス（ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 5) MDMA（エクスタシー、エックス、Xも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 6) コカイン（クラックも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 7) リタリン（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 8) 睡眠薬（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 9) 精神安定剤（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 10) ブロン薬などのセキ止め液（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 11) 危険ドラッグ（脱法ドラッグ、脱法ハーブなども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 12) その他の薬物 | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |

問8

身近な人で、以下の薬物をやった結果病気や異常になった人がいましたか？

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----|----------------------------|-----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド、マニキュアの除光液なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 2) マリファナ（大麻、ハッパ、ハシッシも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 3) 覚せい剤（エス、スピード、シャブも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 4) ガス（ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 5) 睡眠薬・精神安定剤（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 6) 危険ドラッグ（脱法ドラッグ、脱法ハーブなども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |

問9

あなたは以下のような薬物の使用を誘われたことがありますか？

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----|----------------------------|----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド、マニキュアの除光液なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 2) マリファナ（大麻、ハッパ、ハシッシも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 3) 覚せい剤（エス、スピード、シャブも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 4) ガス（ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 5) 睡眠薬・精神安定剤（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 6) 危険ドラッグ（脱法ドラッグ、脱法ハーブなども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 7) その他の薬物 | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |

問 10

あなた自身は以下のような薬物を1回でも使用したことがありますか？

- | | | |
|--|-------------------------------|-------------------------------|
| 1) シンナーやトルエン (ボンド, マニキュアの除光液 ^{じよこうえき} なども含む) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 2) マリファナ (大麻 ^{たいま} , ハッパ, ハシッシも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 3) 覚せい剤 (エス, スピード, シャブも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 4) ガス (ライター用ガス, カセットコンロ用ガスなど) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 5) MDMA (エクスタシー, エックス, Xも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 6) コカイン (クラックも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 7) リタリン (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 8) 睡眠薬 ^{すいみんやく} (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 9) 精神安定剤 ^{せいしんあんていざい} (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 10) ブロン薬などのセキ止め液 (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 11) 脱法ハーブ ^{だつぽう} (脱法ドラッグ ^{だつぽう} , 危険ドラッグなども含む) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 12) その他の薬物 | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |

問 11

施設に入る前, あなたが以下のような薬物を手に入れることはどの程度難しいことでしたか？

- | | | |
|---|-------------------------------------|--|
| 1) シンナーやトルエン | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
| | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 2) マリファナ
(大麻 ^{たいま} , ハッパ, ハシッシも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
| | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 3) 覚せい剤
(エス, スピード, シャブも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
| | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 4) ガスパンのためのライター用ガス・
カセットコンロ用ガスなど | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
| | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 5) 睡眠薬 ^{すいみんやく} ・精神安定剤 ^{せいしんあんていざい}
(病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
| | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 6) 危険ドラッグ
(脱法ドラッグ ^{だつぽう} , 脱法ハーブ ^{だつぽう} なども含む) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
| | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |

問 12 施設に入る前，以下の薬物を使うことをどう思っていましたか？

- 1) シンナーやトルエン **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
3 かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 2) マリファナ **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(^{たいま}大麻，ハッパ，ハシッシも同じ) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 3) 覚せい剤 **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(エス，スピード，シャブも同じ) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 4) ガspanのためのライター用ガス・ **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
 カセットコンロ用ガスなど **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 5) 睡眠薬・精神安定剤 **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(^{すいみんやく}睡眠薬 ^{せいしんあんていざい}精神安定剤) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
(病気治療以外の目的で)
- 6) 危険ドラッグ **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(^{だっぽう}脱法ドラッグ，^{だっぽう}脱法ハーブなども含む) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった

問 13 入所前から以下の薬物使用が法律で禁止されていることを知っていましたか？

- 1) シンナーやトルエン **1** 知っていた **2** 知らなかった
- 2) マリファナ (^{たいま}大麻，ハッパ，ハシッシも同じ) **1** 知っていた **2** 知らなかった
- 3) 覚せい剤 (エス，スピード，シャブも同じ) **1** 知っていた **2** 知らなかった
- 4) 危険ドラッグ (^{だっぽう}脱法ドラッグ，^{だっぽう}脱法ハーブなども含む) **1** 知っていた **2** 知らなかった

問 14 この施設に入る前，お酒（アルコール類）やタバコをどのくらいやりましたか？

- 1) お酒について
1 飲んだことはない **2** 1年で数回 **3** 月2-3回 **4** 週に2-3回 **5** ほぼ毎日
- 2) お酒はいつ頃からやりましたか？（いずれかに○印をつけてください）
1 小学校 **2** 中学校 の_____年生頃から

(問 14 のつづき)

3) タバコについて

- ① 吸ったことはない ② 1年で数回 ③ 月2-3回 ④ 週に2-3回 ⑤ ほぼ毎日

4) タバコはいつ頃からやりましたか？ (いずれかに○印をつけてください)

- ① 小学校 ② 中学校 の_____年生頃から

5) 未成年者のタバコ (喫煙) をどう思っていましたか？

- ① 法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
② 法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
③ 法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた

シンナー遊びについて

問 15 施設に入る前、最もしていた時で「シンナー遊び」をどのくらいしていましたか？

- ① したことはない ② 今まで1, 2回くらい ③ 数回以上した ④ ほとんど毎日

問 16

「シンナー遊び」をしすぎたり繰り返したりすると、下のようなことがおこることがあります。「シンナー遊び」をする前 (したことがない人は施設入所前)、「シンナー遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 急性中毒死 (吸っていてそのまま急に死ぬこと)
② 精神病状態 (何も無いのに物が見えたり声が聞こえたりする幻覚、誰もいないのに自分が見られているとか自分が噂されていると思いきなりする妄想がでること)
③ フラッシュバック (薬を止めてしばらくたつのに幻覚や妄想がでること)
④ いずれも知らなかった

問 17

「シンナー遊び」の結果、上記のような精神病状態 (幻覚や妄想) やフラッシュバックなどを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと「シンナー遊び」をしていない人は③を選んでください)

- ① 精神病状態 ② フラッシュバック ③ 「シンナー遊び」はしたことがない

ガスパン遊び（ガスの吸引）について

問 18 施設に入る前、最もしていた時で「ガスパン遊び」をどのくらいしていましたか？

- ① したことはない ② 今まで1, 2回くらい ③ 数回以上した ④ ほとんど毎日

問 19

「ガスパン遊び」をすると精神病状態（幻覚や妄想）や急性中毒死をおこすことをガスパン遊びをする前に（したことがない人は施設入所前）知っていましたか？「ガスパン遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 精神病状態 ② 急性中毒死 ③ いずれも知らなかった

問 20

「ガス」を使った結果、精神病状態（幻覚や妄想）を体験したことがありますか？

- ① ある ② ない ③ ガスパンは使ったことがない

大麻（マリファナ、ハシッシ、ハッパ）について

問 21

大麻を吸う前（使ったことがない人は施設入所前）、大麻についてあなたはどのように思っていましたか？

- ① 大麻は知らなかった ② 関心がなかった
③ 見てみたかった ④ 試してみたかった

問 22

施設に入る前、最もしていた時で大麻をどのくらい吸っていましたか？

- ① したことはない ② 今まで1, 2回くらい ③ 数回以上した ④ ほとんど毎日

問 23

大麻を吸うと精神病状態（幻覚や妄想）をおこすことを大麻を吸う前に（したことがない人は施設入所前）に知っていましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった

問 24

大麻^{たいま}を吸った結果、精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}（幻覚や妄想）を体験したことがありますか？

- ① ある ② ない ③ 大麻^{たいま}は使ったことがない

覚せい剤（スピード、エス）について

問 25

覚せい剤（スピード、エス）を使う前（使ったことがない人は施設入所前）、覚せい剤についてあなたはどのように思っていましたか？

- ① 覚せい剤は知らなかった ② 関心がなかった
③ 見てみたかった ④ 試してみたかった

問 26

施設に入る前、最も使っていた時で覚せい剤（スピード、エス）をどのくらい使っていましたか？

- ① したことはない ② 今まで1、2回くらい ③ 数回以上した ④ ほとんど毎日

問 27

覚せい剤によって精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}やフラッシュバックが起こることを覚せい剤を使う前（使ったことがない人は施設入所前）知っていましたか？覚せい剤でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 精神病状態^{せいしんびょうじょうたい} ② フラッシュバック ③ いずれも知らなかった

問 28

覚せい剤を使った結果、精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}やフラッシュバックを体験したことがありますか？体験したことをすべてに○をつけてください。（もともと覚せい剤を使っていない人は③を選んでください）

- ① 精神病状態^{せいしんびょうじょうたい} ② フラッシュバック ③ 覚せい剤は使ったことがない

危険ドラッグについて

問 29

危険ドラッグをすると精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}や急性中毒死^{きゅうせいちゅうどくし}をおこすことを知っていましたか？知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 精神病状態^{せいしんびょうじょうたい} ② 急性中毒死^{きゅうせいちゅうどくし} ③ いずれも知らなかった

